

第9回 地域防災 避難・帰宅困難対策・初期対応


今回は、皆さんにとっても関心のある事項について考えてみましょう。

第九回講座の内容

第二部:地域防災




- 1 避難
- 2 帰宅困難時対策
- 3 初期対応(地震直後の行動原則)



避難についての基本的な考え方を本スライドと次のスライドでお示しします。避難すべきか否かの明確な判断基準はありません。自宅等の状況や火災の状況、避難勧告等を考えて自ら決断しましょう。自ら判断することに戸惑いがあるのであれば、市町村の避難勧告や指示に従いましょう。避難すると決断したならば、直ちに行動開始すべきです。


避難に当たっての準備事項や服装はスライドの通りです。念のために連絡の取れない家族への連絡事項を自宅ドアに貼付する等の処置も必要でしょう。

1 避難について




避難についての基本的な考え方(1)

- ① 避難の要否の判断:基準はない
 - ・倒壊の可能性、近傍火災の発生状況
 - ・避難勧告の発令状況等を自ら判断
 - ・躊躇なく避難を決断
- ② 避難準備
 - ・電気のブレーカー落し、ガスの元栓閉め
 - ・家人への連絡事項貼付(避難先等)
 - ・非常持出品の確認、貴重品の携行
- ③ 避難時の服装
 - ・頭部や手などを保護できること ・底の厚い歩きやすい靴
 - ・肌の露出を回避
 - ・両手はフリーに(リュックなどが適)




車を利用したという気持ちがあるかも知れませんが、止めましょう。徒歩で隣近所の方々と指定された避難場所に行きましょう。事態の状況によっては一時避難場所から他の避難場所を指定されることがありますので、それに従いましょう。そういう意味においては市町村の指示や放送に注意しましょう。或いはエリアメールで指示されることもあるかもしれません。

避難についての基本的な考え方(2) 

④徒歩移動且つ集団行動
車は使わない、隣近所と連立って、
指定されたルートを、指定場所へ
指定された道路以外通行
(努めて広い道路、倒壊・落下物の危険回避)

⑤避難場所
通常は指定された場所(事前確認の要あり)
状況により他の指定場所へ
一時集合場所から他の地域へ移動

⑥要援護者及び児童生徒等の避難(支援)
別途説明 

先般の東日本大震災時には、首都圏で500万人以上が帰宅困難となりました。首都直下地震時には650万人の帰宅困難者が発生すると見積もられていますが、実際にはさらに増大するのではないのでしょうか？

自らが帰宅困難になった場合をも考慮して対策を考えておきましょう。まずは家族や自宅の安否確認をすべきであり、家族の安全が確認されたならば、闇雲に帰宅する必要はありません。都心から帰宅しようとする人で大混雑となり、帰宅途中には危険が一杯です。

2 帰宅困難時の対策



①帰宅困難者の定義

帰宅距離に応じて次のように区分

帰宅可能: 10km以内、帰宅困難: 10km以上

②帰宅困難者数

首都直下地震: 1都3県で約650万人と推計

東日本大震災: **首都圏515万人**

(東京都: 約352万人、神奈川県: 約67万人、千葉県: 約52万人、埼玉県: 約33万人、茨城県: 約10万人)

③状況認識(帰宅経路、帰宅時)

大混雑(歩道は満員電車並み)、火災・建物倒壊・

落下物の危険、沿道避難所に多数の避難者

④初期対応(先ず為すべきことは?)

・先ず家族や自宅状況の確認(安否確認法別途)

・無闇に移動せず、まず状況確認

徒歩帰宅の心得というものが、あるホームページに掲載されていました。参考にして頂きたいと思います。

⑤徒歩帰宅の心得7ヶ条



<留まる>

1 連絡手段: 事前に家族で話し合い

2 携帯もラジオも必ず予備電源

<知る>

3 日頃から帰宅経路をシミュレーション

4 災害時の味方: 帰宅支援ステーション

<5>

5 職場には小さなリュックとスニーカー

6 帰宅前には状況確認

7 助け合い、励まし合って徒歩帰宅

行政や企業も手を拱いている訳ではありません。帰宅支援ステーションがあちらこちらに設けられています。スライドのあるステッカーのお店は帰宅途中の皆さんの役に立つはずです。

東日本大震災で、駅を閉めて避難者を締め出して批判を浴びたJRも駅舎の開放を決め、各行政機関もスライドの通りの帰宅困難者支援を行っています。



⑥帰宅支援
災害時帰宅支援ステーション
 (9都県市とコンビニ協会等協定締結、関西圏でも広がりがつあり)
 帰宅支援者に対し、・水道水の提供、・トイレの使用
 ・各種情報提供(道路、避難所)




都立高校、ガソリンスタンド、コンビニ、
 ファーストフード店、ファミリーレストラン、
 居酒屋チェーン等

⑦JR等交通機関の取組
 2011年6月25日:JR東 主要駅の駅舎を待機所として開放、毛布等提供
 ⑧2012年2月29日:都営地下鉄5万人分の備蓄をH24年度中に
 ⑨行政の対応:避難所や公的機関における帰宅困難者支援

企業としても社員が帰宅困難に陥った場合の対策に乗り出しています。一定期間滞在できるように対策が為されつつあります。

帰宅支援グッズも各種販売されていますし、通勤用の鞆に忍ばせておくことが必要でしょう。

徒歩帰宅の訓練を勧めます。初めて歩くのと一回歩いたことがあるのとでは違います。場所を区切って何回か歩いてみたら可能でしょう。



⑨企業の帰宅困難者(来社者を含む)支援
 家族の安全確認出来た者が一定期間滞在出来る如く、食料、水、トイレ等の備蓄

⑩海上交通による帰宅支援

⑪帰宅支援用グッズ

- ・帰宅支援専用地図(専用にかスタマイズ、市販品)
- ・情報収集用ツール(ラジオ等、予備電池)
- ・携帯用浄水器、レインコート等、LEDライト、防護用マスク等

⑫徒歩帰宅訓練を!
 現地現物での確認重要、
 行政等が実施する訓練への参加

大規模災害が発生した場合のとっさの行動の適否が生命や被害局限を左右します。これから3つのスライドでいざという場合にどのように行動すべきかをお示ししたいと思います。大きい揺れを感じたならば、まず自分の身を守ることを優先する必要があります。

消火も重要なことです。先ずは身の安全を確保してから消火に努めましょう。消火のチャンスは3度あると云われています。

消火すべきは避難すべきかの判断も重要です。天井に火が届く程度以下の場合は消火が可能であると云われています。

3 初期対応(地震直後の行動原則)



大規模地震の場合に先ず対処すべき事項

①先ず自身の身を守る！

- ・丈夫なテーブルや机の下に身を伏せる
- ・座布団などで頭部を保護
- ・手で保護する場合は掌を下に

②速やかに消火！

- ・可能ならば消火、止むを得ない場合には大きな揺れが収まってから、
- ・昔はまず消火と言われたが、現在はまず身の安全を優先
- ・火を消す3度のチャンス:揺れを感じた時、大揺れが収まった時、出火した時
- ・消火器の準備:火元を狙って消火、天井に火が届く程度以下の場合は消火器で可能

出口の確保も重要です。揺れの合間を見て出口を確保しましょう。

③落ち着いて行動

④出口の確保

避難用の出口、揺れの合間を見て
バール等あれば可

⑤慌てて外に出ない

瓦、ガラス、看板等が落下してくる可能性あり

⑥門や塀に近づかない

倒壊の危険性あり

⑦トイレに居たら

トイレは比較的安全な場所、ドアを少し開け揺れが収まるのを待つ

起きている時に大きい揺れがあった場合は対応できたとしても就寝中にはなかなか対応できないものです。就寝中、家具等が落下しても安全が確保できるようにチェックしてみましょう。



⑧入浴中

トイレより安全、脱衣所のドアを少し開け、揺れが収まるのを待つ、着衣、水は抜かない、ガスの元栓閉める 浴槽の蓋で頭部保護

⑨就寝中

- ・寝室の防災対策(家具等を置かない、落下・倒壊防止対策)を優先、
- ・必要最小限ものを枕元に準備、懐中電灯
ラジオ(緊急地震速報受信機付、エリアメール受信)
- ・布団に潜りこむかベッドの下へ